

ふれあい



第15号

平成 26 年 3 月 26 日

十日町市身体障がい者福祉センター

(今回の題字は上村一浩さんです)

鉛色の景色から暖かな陽光と新緑、雪国の季節感溢れる光景も間もなくですね。

さて、目まぐるしく変化する社会環境、これに合わせて障害者福祉制度も大きく変わってきました。自立から共生をフレーズとする新たな障害者総合支援法により福祉の充実が益々進められますが、既に心のバリアフリー、ノーマライゼーションなど専門用語が一人歩きする環境にはありません。障がいを持たれる皆さんが自らノーマライゼーションに参加する積極性が求められています。

このような福祉背景から、当センターでは更に充実した創作・学習・社会参加活動など、明るく元気な活動を支援したいと考えています。

センター「つどい」事業知っていますか？

平成 25 年 8 月より、障がいを持たれる皆さんの憩いの場として開設された事業です。教養娯楽講座として、主に映像を通じた社会教育と、ボランティアの皆様による演芸等を観賞し、時には一緒に参加して楽しく交流することで、参加者の生きがいに資することを目的としています。毎月の第 2、第 4・第 5 金曜日の午前 10 時～12 時と第 5 金曜日の午後 1 時 30 分～3 時 30 分で、特に第 5 金曜日の「つどい」は多彩な演芸等が披露され、ユーモアクラブ様、シャープの会様による歌声広場・落語、アリエス様によるピアノとフルート演奏などを行いました。

1 月・2 月の「つどい」事業を紹介します

1 月 31 日の歌声広場ではコーラスグループのコール・ZOO (コール・ズー) 様をお招きし、美しい歌声を披露していただきました。後半は、職員で結成したパイパイバンドによる演奏に利用者も加わり、この日最大の盛り上がりとなりました。



2 月 28 日には、平成 25 年度新潟県リコーダーコンテストで金賞を受賞した馬場小学校リコーダー部様の演奏がありました。型の異なるリコーダーの説明もあって、合奏と重奏とも素晴らしい演奏は、最後まで参加者の心を引きつけていました。全国大会でのご活躍をお祈りいたします。

また同日、森の保育園の年中園児様からも可愛い歌と踊りのプレゼントがあり、「つどい」事業は世代間交流も行っています。



「つどい」に参加してみたい方は

どなたでもお気軽に当センターまでご連絡下さい。

1月・2月の創作活動を紹介します

社会参加活動 ちんころ作り

1月9日～22日、十日町市の冬の伝統文化であるちんころ作りに今年も挑戦しました。講師の指導のもと、基本となる犬と今年の干支である午を思い思いに作りました。基本の形(かた)を忠実に作る人、自分なりにアレンジする人など様々です。今年一年が良い年になりますように！1個1個それぞれの想いが籠められています。



創作活動 祝・十日町雪祭り卓上カレンダー

2月3日～9日、第65回十日町雪祭りに当センターも積極的に参加しました。市挙げての冬のお祭りを皆さんと盛り上げ、そして楽しむため「祝・十日町雪祭り卓上カレンダー」と題したオリジナル卓上カレンダーを創作しました。

表紙のイラストを絵画教室の小川敏夫様と齊藤修様に、また題字は江村センター長に協力していただきました。



社会参加活動 雪像雪だるま

「ころちゃん」



眠っていた着物の端切れが、利用者の手で加工、十日町ならではのマフラーに甦りました。

どっしりとした雪だるまは、当センター利用者と職員のようにしっかりと雪の土台に根を下ろしています!!

創作活動 お雛様のリース

2月22日～27日、ひな祭りは暗く寒い冬が終わり、明るく暖かい春の訪れを喜ぶ一日でもあるとされ、童心に返り貼り絵のリース作りに取り組みました。センターに眠っていた和紙の再生紙を台紙に利用し、力作の男雛、女雛を貼り付けました。簡単な創作でしたが、利用者からは「子供の頃以来で、新鮮で楽しかった！」という声も聞かれ、季節の行事として毎年行っています。



26年度も夢のある創作活動に積極的に取り組んでいきます！！

センター利用団体のご紹介

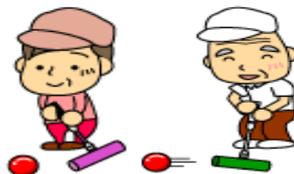
身障センターでは、センター条例に基づいて地域の様々な団体の活動の場としてご利用いただいています。今回は高山松寿会ゲートボール部様を紹介します。

高山老人会ゲートボール部として4月より11月降雪迄の活動。

高山松寿会ゲートボール部は、身障センター屋外運動場でAM8:30~AM11:30まで毎日のように練習しています。会員数10名ですが、部外からの練習者も訪れて常時12名~15名。日曜日以外あの炎天下でも休み無しに集合し(25年度)当事者ながらただ感動でした。92歳を頭に平均年齢80歳、全員が目を見張るほど元気です。そして若さもあります。有り難い事はセンター長を始め職員の優しい態度です。何事も老人を優先に考えてくれる事に頭が下がります。

ゲートボール場の四季折々の草花に癒され、又大きな桜の木の下で涼をとるのが何よりの毎日です。センター長が植えられたデッカイ南瓜の成長を毎日眺めながら、そんな話題の一つひとつが私たちの元気に生きようとする原点になっているようにも思います。そしてセンター玄関のふれあいギャラリーも、生きる事のすばらしさを学ばせていただくひと時があります。

冬期間は、送迎車両によって平成園の屋内運動場に通り、一日中暖房のある所で笑って、シャベッテ、満足そのものです。玄関入り口まで職員が出向いて下さり、感謝の言葉しかありません。元気で周りの人々の援助を借りながら「また来ようね!」を合い言葉に頑張っています。ゲートボールに皆さん、参加してみませんか。



高山松寿会ゲートボール部
高橋 節子

写真教室第一回写真コンテスト開催

写真教室初の試みで、第一回写真コンテストを開催しました。一年の締めくくりとして、また写真教室の活性化及び発表の場として、8名の参加者が一年間撮りためた自慢の作品の中から一点を出展しました。センター利用者、小坂写真教室講師、センター職員の総勢約50名が審査員となり、金賞他7賞が決定し3月14日に表彰式が行われました。

~審査結果~

金賞	「妖光」	五十嵐 勝一
銀賞	「六地藏」	野上 忠義
銅賞	「晩秋」	金沢 正作
センター長賞	「日本を背負う子ら」	竹内 ハル
講師賞	「大きいよ」	金沢 弘一
努力賞	「春の足音」	井之川 定信
ユーモア賞	「ツーショット」	江村 久
アイデア賞	「太陽の塔」	丸山 志保

来年度も開催予定ですので、
皆さん参加してみませんか!



利用者の作品紹介

自由詩「私の手」

石沢 スミエ

右の手、左の手、両方合わせて一人前、私は右ききだった。
ある日突然、右の手が疲れたのか休んで、ずっとお休みしている・・・
ご飯も手づかみで食べた。飲み物もこぼした。 介護の人にいろいろ言われた。

でも私は、ずっと私を支えてくれた右手だから、感謝しなければと思う。
あれも出来ない、これもだめだと思えば悲しくなるけれど、
私には元気いっぱい左手があるよ！
苦勞して覚えた大好きなお紙だっておれる！
右手さんありがとう。左手さんこれからもよろしくね。
私の左手、私の手ばんざい！！

平成 25 年度 NPO・TASC 奨励金交付団体の決定によせて

センター長 江村 久

3月13日、当センターに吉報が届きました。平成25年度NPO・TASC助成金交付規定による奨励金交付団体の決定についてです。今回は3回目の受賞となりますが素晴らしい栄誉です。全国肢体不自由児・者美術展、新潟県障害者芸術文化祭の入賞者は勿論ですが、作品応募者と共に活動したセンターご利用者全員への評価と思います。誠にありがとうございました。

さて25年度は明るさと活発さが映えた1年であったように思います。それは5月の季節行事「鯉のぼり」の試みからでした。屋上で真っ青な空に優雅に泳ぐ「鯉のぼり」は久しく皆様の心を和ませました。これがヒントとなって、共同創作パッチワークの鯉のぼりが第12回新潟県障害者芸術文化祭の工芸部門で見事実行委員長賞に輝きました。夏の緑のカーテンコンテスト、また、絵本と木の実の美術館との共同創作「泳ぐ巨大シズリンの髪飾り」、秋には野菜の種まき、サツマイモの収穫。そしてタバコの空き箱創作「ロボット兵の火の用心」は社会貢献活動として報道から注目されました。雪祭りには雪像の「ころちゃん」で今年もビッグイベントに参加。更に皆さんが積極的に取組んだ創作活動では全国、県の美術展・文化祭で大きな成果を挙げました。絵画を始めて初の全国入賞者、そして県の書道部門ではセンター初の県知事賞、更には実行委員長賞、審査員特別賞の三賞独占など、次々と皆様の奮闘が実を結びました。より積極的に、活発にと取組んだ炎天下のゲートボールと遠方外出。新たな取組みであった「つどい事業」はボランティア・保育園・小学校などとの交流で温かい心のふれあいが生まれました。言葉では表せない感動と喜びです。このような日々の活動は積極的な情報発信とともにセンターの存在感を格段に向上させることとなり、地域のノーマライゼーションに大きく貢献したものと思います。

どうか26年度も更に充実した活動が展開出来るように、そして皆様方のご健康とご活躍をご祈念いたしまして受賞のお祝いいたします。おめでとうございます。

